

都市デザインシステムがオフィス移転に伴う ネットワーク新規構築において コアからエッジまでD-Linkのスイッチ群を採用



株式会社都市デザインシステム

エンドユーザの視点に立ち、住みたい家をカタチにしていくコーポラティブハウスを作る建築企業。顧客の要望をヒアリングするところからスタートし、それぞれの要望を叶える設計を行ない、多くの手間と約2年の時間をかけて理想の家を作る。30名を超える設計技術者を抱え、顧客の要望をカタチにし続けている。

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-1-12
TEL:03-6440-9500 FAX:03-6440-9504
URL:<http://www.uds-net.co.jp>



株式会社 都市デザインシステム
法務・総務部
宮田 洋章 氏

パートナー企業

日立フィールドアンドファシリティサービス株式会社



日立フィールドアンド
ファシリティサービス株式会社
営業統括本部 拡販推進部
主任
長 秀樹 氏



日立フィールドアンド
ファシリティサービス株式会社
コンストラクション事業本部
ネットワークコンストラクション1部
第2課
岩橋 孝昭 氏

マンションの設計、建築および販売を手がける株式会社都市デザインシステムでは、コーポラティブ事業に力を入れている。通常に分譲マンションとは違い、まずマンション購入希望者を募って組合を構成、その意向に沿ったマンションを建築、販売する。各部屋の間取りや内装なども、それぞれのオーナーの意向に沿って設計されるため、設計書類や顧客管理の資料は膨大な量になり、社内LANを流れる情報量も多い。そんな都市デザインシステムが新しいオフィスのネットワークに採用したのは、D-Linkのスイッチ群だった。

POINT

- ① 1 Gbpsに対応し、実環境でもネットワークの高速性を体感できる高い実効速度
- ② コアスイッチからエッジスイッチまでファイアウォール、無線APなどを網羅する豊富なラインナップ
- ③ VLANを活用した効率的なネットワーク管理



L3スイッチ DGS-3600シリーズ

L2スイッチ DGS-3400シリーズ



アンマネージドギガビットスイッチ
DGS-1000シリーズ



ファイアウォール DFLシリーズ



PoE対応ワイヤレス AP
DWL-3200AP

スタック構成にも対応するL3スイッチをはじめ、各フロアへの設置に適した規模のL2スイッチ、部署単位での利用に便利な小型のアンマネージドスイッチまで、幅広いラインナップを持つD-Linkのスイッチ群。ワイヤレスAPや、セキュリティを高めるファイアウォールも用意され、ネットワークに必要な機器をひとつのベンダーで提供している。

高速なネットワーク構築に欠かせない1Gbps対応、 予備機の用意でダウンタイムも限りなくゼロ

オフィス移転に伴い 新ネットワークを構築

都市デザインシステムにオフィス移転の計画が持ち上がったのは、2007年春のことだ。それに伴い、ネットワーク構築の計画も始動した。最も重要な要件として挙げられたのは、速くて止まらないネットワークであること。以前のオフィスでは100MbpsのLANを利用していたが、設計者や営業担当者が取り扱うファイルのサイズは年々巨大化し、ファイルサーバへのアクセスに時間がかかることが課題とされていた。

「CADのデータファイルや写真を多用した営業資料など、100MB程度のファイルを扱うのは日常茶飯事になっています。これをファイルサーバから開こうとすると時間がかかりました」

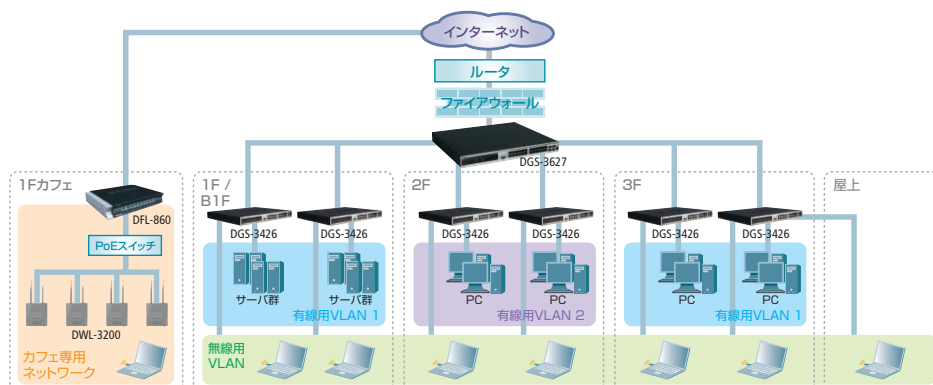
法務・総務部の宮田氏は、以前のネットワーク環境をそう振り返る。また、速さと並んで安定性も重要視された。重要なファイルをファイルサーバで集中管理しているため、ネットワークが停止してしまえば業務自体も停滞してしまう。さらに運用上の要件として、250台を超える端末を効率よく管理するため、VLANでネットワークセグメントを分けて管理できること、GUIを使って手軽に設定できることなどが挙げられた。

コアからエッジまでを 同一ベンダで揃えるラインナップ

都市デザインシステムはシステムインテグレータ数社に要件を伝え、ネットワーク構成の提案を受けた。その中で、日立フィールドアンドファシリティサービス（以下、日立FS）の提案が、性能とコストのバランスにおいて最も優れていたという。

「1Gbpsのネットワークでありながら、コストにも優れている点が、まず評価されました。また、こちらが出した要件の意図をうまく汲んでくれていました」

日立FSが提案したのは、D-Linkのスイッチ群を利用したネットワークだった。コアスイッチからエッジスイッチまで、ネットワーク全体を1Gbpsに対応



させている。今回の案件を担当した日立FSの営業統括本部の長氏は、D-Link製品を選択した理由を次のように語る。

「ネットワーク構築の経験上、ネットワーク機器は同一ベンダで揃えた方が有利だと考えています。D-LinkにL3のコアスイッチからエッジスイッチまでが揃っているので、心強いですね」

同一ベンダの製品で揃えておけば相性問題もなく、高い性能を発揮しやすい。さらに、万一の障害時やメンテナンス時にも、問い合わせ先がひとつのベンダに絞られるという運用上のメリットもある。また、D-Link製品選択の背景には、意外と知られていない1Gbps対応スイッチの性能のばらつきもあると、日立FSのコンストラクション事業本部の岩橋氏は言う。

「1Gbps対応をうたっているにもかかわらず実効速度が低い機器も多いんです。その点、D-Linkのスイッチは安定して高い実効速度を示します」

プロの視点で選ばれた製品に、都市デザインシステムの宮田氏も納得し、実際のネットワークが構築された。

予備機対応でダウンタイムを 実質的にゼロに近づける

2008年1月から、新オフィスの利用が始まった。ネットワークは、エッジスイッチにいたるまですべて1Gbps対応の製品で揃えられた。オフィスのLANは各フロアの有線LANごとに

VLANで区切られた。無線LANにはさらに別のVLANが割り当てられ、フロアを移動しても同じ環境で使えるよう配慮されている。使用している機器類には予備機が用意され、万一ハードウェアに障害が発生したとしても、同型機に即座に置き換えることで、ネットワークを速やかに復旧できる。障害時に現場で即座に対応できるのがポイントだと、宮田氏は言う。

「オンサイトの保守契約をしたとしても、保守要員が駆けつけてくれるまで数時間は止まってしまう。予備機への切り替えなら私でも対応でき、実質的なダウンタイムを限りなく短縮できます」

また、オフィスビル1階のカフェにも無線LANが導入されたが、こちらはセキュリティを確保するためにオフィスのネットワークとは完全に分離されている。D-LinkのファイアウォールDFLシリーズが設置され、社員はもちろん打ち合わせや商談に訪れた方や、カフェの来店客にも無線LANネットワークは開放されている。

「日立FSさんには細かい注文も聞いていただき、満足のいくネットワークを構築できました。最も重要だったネットワーク速度についても、100MB程度のファイルがストレスなく扱えるようになり、従業員からも好評を得ています」

ビジネスの根幹を支えるオフィスとネットワークを刷新し、新たな一歩を踏み出した都市デザインシステム。今後の躍進に向けて、体制は万全なようだ。

D-Link®
Building Networks for People

ディーリンクジャパン株式会社

〒108-0075 東京都港区港南2-4-12 港南YKビル6F
TEL: 03-5781-0963 (代表) FAX: 03-5781-0965
URL: <http://www.dlink-jp.com>

■ 販売店

高速なネットワーク構築に欠かせない1Gbps対応、 予備機の用意でダウンタイムも限りなくゼロ

オフィス移転に伴い 新ネットワークを構築

都市デザインシステムにオフィス移転の計画が持ち上がったのは、2007年春のことだ。それに伴い、ネットワーク構築の計画も始動した。最も重要な要件として挙げられたのは、速くて止まらないネットワークであること。以前のオフィスでは100MbpsのLANを利用していたが、設計者や営業担当者が取り扱うファイルのサイズは年々巨大化し、ファイルサーバへのアクセスに時間がかかることが課題とされていた。

「CADのデータファイルや写真を多用した営業資料など、100MB程度のファイルを扱うのは日常茶飯事になっています。これをファイルサーバから開こうとすると時間がかかりました」

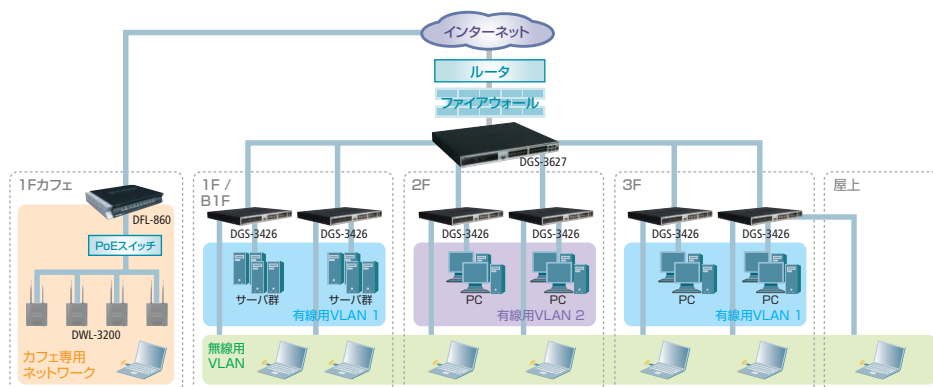
法務・総務部の宮田氏は、以前のネットワーク環境をそう振り返る。また、速さと並んで安定性も重要視された。重要なファイルをファイルサーバで集中管理しているため、ネットワークが停止してしまえば業務自体も停滞してしまう。さらに運用上の要件として、250台を超える端末を効率よく管理するため、VLANでネットワークセグメントを分けて管理できること、GUIを使って手軽に設定できることなどが挙げられた。

コアからエッジまでを 同一ベンダで揃えるラインナップ

都市デザインシステムはシステムインテグレータ数社に要件を伝え、ネットワーク構成の提案を受けた。その中で、日立フィールドアンドファシリティサービス（以下、日立FS）の提案が、性能とコストのバランスにおいて最も優れていたという。

「1Gbpsのネットワークでありながら、コストにも優れている点が、まず評価されました。また、こちらが出した要件の意図をうまく汲んでくれていました」

日立FSが提案したのは、D-Linkのスイッチ群を利用したネットワークだった。コアスイッチからエッジスイッチまで、ネットワーク全体を1Gbpsに対応



させている。今回の案件を担当した日立FSの営業統括本部の長氏は、D-Link製品を選択した理由を次のように語る。

「ネットワーク構築の経験上、ネットワーク機器は同一ベンダで揃えた方が有利だと考えています。D-LinkにL3のコアスイッチからエッジスイッチまでが揃っているので、心強いですね」

同一ベンダの製品で揃えておけば相性問題もなく、高い性能を発揮しやすい。さらに、万一の障害時やメンテナンス時にも、問い合わせ先がひとつのベンダに絞られるという運用上のメリットもある。また、D-Link製品選択の背景には、意外と知られていない1Gbps対応スイッチの性能のばらつきもあると、日立FSのコンストラクション事業本部の岩橋氏は言う。

「1Gbps対応をうたっているにもかかわらず実効速度が低い機器も多いんです。その点、D-Linkのスイッチは安定して高い実効速度を示します」

プロの視点で選ばれた製品に、都市デザインシステムの宮田氏も納得し、実際のネットワークが構築された。

予備機対応でダウンタイムを 実質的にゼロに近づける

2008年1月から、新オフィスの利用が始まった。ネットワークは、エッジスイッチにいたるまですべて1Gbps対応の製品で揃えられた。オフィスのLANは各フロアの有線LANごとに

VLANで区切られた。無線LANにはさらに別のVLANが割り当てられ、フロアを移動しても同じ環境で使えるよう配慮されている。使用している機器類には予備機が用意され、万一ハードウェアに障害が発生したとしても、同型機に即座に置き換えることで、ネットワークを速やかに復旧できる。障害時に現場で即座に対応できるのがポイントだと、宮田氏は言う。

「オンサイトの保守契約をしたとしても、保守要員が駆けつけてくれるまで数時間は止まってしまう。予備機への切り替えなら私でも対応でき、実質的なダウンタイムを限りなく短縮できます」

また、オフィスビル1階のカフェにも無線LANが導入されたが、こちらはセキュリティを確保するためにオフィスのネットワークとは完全に分離されている。D-LinkのファイアウォールDFLシリーズが設置され、社員はもちろん打ち合わせや商談に訪れた方や、カフェの来店客にも無線LANネットワークは開放されている。

「日立FSさんには細かい注文も聞いていただき、満足のいくネットワークを構築できました。最も重要だったネットワーク速度についても、100MB程度のファイルがストレスなく扱えるようになり、従業員からも好評を得ています」

ビジネスの根幹を支えるオフィスとネットワークを刷新し、新たな一歩を踏み出した都市デザインシステム。今後の躍進に向けて、体制は万全なようだ。